平成 19 年 5 月 31 日

宇陀市長　前田　禎郎　様

社団法人日本建築学会近畿支部
支部長　杉山茂一

榛原福祉会館（旧県立蚕業試験所）の保存に関する要望書

拝啓　時下益々ご清栄のことと拝察申し上げます。日頃より、本会の活動につきましては、多大なご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび拝聞するところでは、貴下におかれましては、現在、榛原幼稚園（宇陀市榛原区萩原 2254）構内に所有する「榛原福祉会館（旧県立蚕業試験場）」につきまして、同幼稚園の園庭拡大計画に伴い、取り壊しを考えておられる旨うかがっております。

しかしながら、あらためて申し上げるまでもなく、同幼稚園の敷地は旧県立蚕業試験場の敷地を引き継ぐもので、宇陀地方の農家の生業を伝える数少ない手がかりであり、宇陀地方が奈良県の養蚕業の中核をなした事実を物語る重要な建物であります。建築の質においても、奈良県における近代建築の特色を顕著に示す外観や、堅実な手仕事でつくられた内部空間は、木造洋風建築の展開・洗練をよく物語る優れたものとして極めて高い評価を受けております。

つきましては、建築遺産の継承のために、貴下におかれましては、改めて榛原福祉会館（旧県立蚕業試験場）の文化的意義と歴史的価値について十分なるご理解をいただき、このかけがえのない文化遺産を末永く後世に継承すべく、現地における適切な保存をご検討いただきますようお願い申し上げる次第です。

なお、本会はこれらの建物の保存に関しまして、技術指導など出来ます範囲でお手伝いさせていただきたいと考えておりますことを申し添えます。

今後とも、由緒ある優れた建造物の保存に、ご理解とご努力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

榛原福祉会館（旧県立蚕業試験場）に関する見解

社団法人日本建築学会近畿支部
環境保全部会　主査　鈴木克彦

榛原福祉会館（以下より、旧県立蚕業試験場という）は、以下の４つの観点から極めて高い価値が認められる。

１．様式・意匠：様式・構造が時代性および地域性を体現している

旧県立蚕業試験場の創建時期は明確ではないが、文献によると大正 6 年に榛原に設置された県立蚕種製造所がその起源と考えられている。わが国の建築の流れの中で、大正時代は明治時代から行われてきた西洋建築の様式・技術の導入が一段落し、これらに日本の伝統的な意匠を加えて建築的に洗練された時代と認識されている。

奈良県においては、旧奈良県物産陳列所（明治 35）・旧高市郡教育博物館（明治 36）・旧奈良県立図書館（明治 42）など、県庁営繕課の設計による公共建築が遺構として残っているが、いずれも外壁は腰壁を張り漆喰仕上げで、入母屋屋根を積極的に取り入れた意匠が共通している。旧県立蚕業試験場もこれらの系統に連なる意匠を有しており、奈良県の地域性が顕著である。また、旧県立蚕業試験場はトラス構造（洋小屋）を採用しており、日本の伝統的な意匠と西洋から導入した技術が融合した建物であるといえる。

２．保存状況：保存状態が良好である

旧県立蚕業試験場は管理の手が行き届いており保存状態が良好で、当初の姿はもとより手仕事的な施工技術の様子もよく伝えている。一部に増改築部分も見られるが、当初の姿を復原することは可能である。

３．地域文化：奈良県および宇陀地域の養蚕業の歴史と文化を伝える

県立蚕業試験場は大正 6 年の設立から昭和 25 年に廃止されるまで県下養蚕の指導機関として機能し、原蚕種の製造配布、緑肥・種子の配布などの事業と蚕業全般の試験、調査、技術指導などが行われた。大正 9 年の戦後恐慌、昭和 4 年の世界恐慌による糸価の暴落を契機に養蚕業は衰退に向い、施設の縮小が図られており、昭和 31 年には榛原蚕業指導所が、昭和 32 年 4 月には奈良県繭検定所が八木町から蚕業試験場内に移転した。こうしたことからも県立蚕業試験場が県内の養蚕業において中心的な位置づけにあったことが判る。

養蚕業の衰退に伴い、宇陀地方で数多く見られた桑畑は徐々に米・麦・果樹などの田畑に姿を変えていくこととなる。養蚕業は宇陀の農村に暮らす人々の暮らしを支えた基幹産業であったが、現在は桑畑や関連施設は殆ど残っていないため、養蚕業の隆盛を示す遺構として旧県立蚕業試験場が持つ歴史的・文化的価値は高い。

４．地域資源としての可能性：地域のシンボルとなりうる立地条件である

旧県立蚕業試験場は、榛原駅の北東にある高台の端部、駅から徒歩 5 分の場所にある。玄関から中心市街地を見渡せ、かつてはこの場所から桑畑（現宇陀市立病院）、製糸工場（現南都銀行周辺）、蚕業指導所（隅坂神社付近）などの関連施設を一望することができた。

現在は高層ビルなどが建ち並び、駅から旧県立蚕業試験場を眺められないが、その立地から榛原の景観としてシンボル的な存在であったことは想像に難くない。奈良県の中心的施設として活躍した建物から学び取る事柄は多く、地域学習における生きた教材としての活用も期待できる。

また、蚕業試験場としての役目を終え、榛原町に払い下げられた後は、社会福祉協議会の事務局・児童相談所など福祉に関する団体の拠点が置かれ、1 階の小部屋や 2 階の大部屋は地元の老人会や踊りの会などが現在も積極的に活用している。このように地域活動に貢献する施設、榛原福祉会館として再利用し丁寧に使い続けてきたことは高く評価できる。建築の維持継承の観点からしても、今後ともこの施設が持つ機能を発揮し続けるかたちでこの建物が残されることが、宇陀市における地域振興のためにも、地域住民の郷土意識を醸成する上でも、奈良県における近代化の足跡を留める上でも大切なことである。

以上のことを踏まえたうえで、十分な歴史的・建築的調査が行われ、今後ともこの建築が保存活用されることが望ましいと考える。